

“LOVE in Action Meeting (LIVE)”

フォトレポート

若年層へ献血の大切さを伝え、献血への協力を呼びかけるプロジェクトとして2009年より立ち上げられた『LOVE in Action』。6月14日の『世界献血者デー』を盛り上げるべく、2018年で9回目となる『LOVE in Action Meeting (LIVE)』が開催されました。

プロジェクトリーダーの“レモンさん”こと山本シュウさんと、フリーアナウンサーの小林麻耶さんが司会を務める中、本プロジェクトに賛同したアーティストたちによる熱いパフォーマンスが披露されました。イベントの様子はオンラインで生配信され、献血の大切さを全世界に向けて発信しました。



トップバッターを飾ったandropは、平成30年「はたちの献血」キャンペーンソング『Ao』を披露。「僕らの行動で救える命がある。そんな献血のつながりを歌った曲です。最後に一緒につながりませんか。」と呼びかけ、熱いパフォーマンスで観客を魅了しました。



楽器を持たないパンクバンドとして話題のBiSHは、エモーショナルなパフォーマンスで観客を魅了しました。「普段、献血について深く触れることがなかったので、今日は改めて知ることができました。みなさんこの機会に献血に行きましょう！」と献血への参加を呼びかけました。



私立恵比寿中学は、皆を元気にする全身全霊のパフォーマンスで会場を熱気に包みました。

ライブ終了後には「初めての献血は勇気がいると思います。そして、心も体も元気で健康なことが必要だと思います。私たちのパフォーマンスで笑顔になってくれたら嬉しいです。」と語っていました。

MCトークでは、クイズ形式で献血に関する知識を伝えるとともに、多くの人の協力が必要だと呼びかけました。

また、モデルやタレントとして活躍する友寄蓮さんが登壇し、受血者としての経験談を披露。壮絶な闘病生活について振り返るとともに、「心が折れたときに、100人以上の血液で生かされているんだと思ったら、頑張らないと」と力強く語りました。



ダンスパートでは、「第11回日本高校ダンス部選手権 新人戦」でLOVE in Action 特別賞を受賞した「大同大学大同高等学校」「神戸大学附属中等教育学校」「山村国際高等学校」の3校が豪快なパフォーマンスを披露。気合いの溢れる熱いダンスに、会場からは大きな拍手が送られました。

